

立命館大学災害復興支援室

瓦版

かわらばん

【第22号】2014年3月7日発行

3.11 追悼企画

いのちのつどい

(BKC:セントラルアーク1階)

この3月11日で、東日本大震災の発生から3年が経ちます。災害復興支援室では、東日本大震災発生後のこれまでの立命館の復興支援の取り組みをふまえ、「いまだからこそ、私たちにできること」について学内構成員（学生・生徒、教職員、関連組織）が共有、学内外に発信する場として、今回はBKCキャンパスにおいて「いのちのつどい」を実施します。

●写真と言葉でつむぐ復興支援
～参加型トークセッション～
立命館の学生がこれまで行ってきた復興支援活動に関わる思い出を、写真をもとに共有し、語り合います。

●「思い出写真」募集・展示
東日本大震災以降、復興支援等にかかわって撮影された写真を募集し、会場で展示します。

●「追悼のとき」黙祷、絵ろうそく点灯
教職員、学生と、地域の方々が集い、吹奏楽部による追悼演奏の後、会津絵ろうそく献灯を行うとともに、東日本大震災発生時刻14:46に黙祷を行います。

■3/11 タイムテーブル■

すいとん	写真展示	トークセッション	追悼企画	Music Video
12:00～ ふるまい スタート (なくなり次第終了)	11:30～15:30 思い出の写真 展示・スライド上映 (随時)	12:00～14:00 トークセッション 写真と言葉で つむぐ復興支援	14:15～15:00 追悼のとき ・追悼演奏 ・室長挨拶 ・黙祷	11:30～ ミュージック ビデオ上映 (随時) 15:00～ ダンス&動画 撮影

●「I love you &I need youふくしま」
立命館ミュージックビデオ撮影
福島県出身のミュージシャンで構成されるバンド猪苗代湖ズ「I love you & I need you ふくしま」にあわせて、立命館の学生、教職員が踊る映像をつないで、1本のミュージックビデオを制作。You Tube「Ritsumeikan Channel」や災害復興支援室HPで公開します。3.11の当日も会場に集まった方々全員で、歌&踊りのシーン撮影を行います。

●東北を味わおう！
～郷土料理「マミーすいとん」のふるまい
立命館大学生生活協同組合協力のもと、福島県楡葉町の郷土料理「マミーすいとん」の炊き出し（200食）をランチタイムに実施します。

●総合防災訓練（BKC・衣笠・朱雀）
草津市消防局、京都市消防局の協力を得て、各キャンパスにおいて、教職員・学生による防災訓練が行われます。

＜立命館教職員の皆様へ（お願い）＞
東日本大震災から3回目の3月11日を迎えるにあたり、震災の発生時刻14:46から1分間の黙祷を、各部署・事務室単位でも行っていただければ幸いです。

UBCに留学中の学生

バンクーバーで復興支援企画

「JAPAN FAIR」を開催

立命館大学とブリティッシュコロンビア大学（UBC／カナダ・バンクーバー）が実施する8ヶ月のジョイントプログラムに参加して現在留学中の立命館大学生たちが、ボランティア組織Rits Real Japan Project（RRJP）を結成し、東日本大震災の被害、復興の状況、日本の魅力を紹介するチャリティ展示企画「Japan Fair」を3/10（月）-3/12（水）に開催します。
学生たちは、留学後、震災以降の日本に関する情報不足や誤解から、日本への訪問に不安を抱く人々が多いことを知り、今回の活動を通じて現在の日本の姿を正しく伝えることを目指しています。全ての展示物には、学生たちが英語の説明文を加える作業を行います。
放射能被害に関する展示では、福島県に情報提供を依頼し、最新の情報をデータとともに紹介する予定です。



▲展示物を準備するメンバー



▲facebookページで情報発信中

【開催】3/1-16「失われた街」

模型復元プロジェクト特別展

（盛岡）

立命館大学の理工学部・宗本研究室も参加し、全国の建築系研究室が東日本大震災で被災した東北沿岸の各地域の模型での復元した“ふるさとの記憶 いわて失われた街模型復元プロジェクト”の特別展が3月16日まで岩手県盛岡市で開催されています。特別展には宗本研が制作した宮古市田老の模型を含む岩手県内10地域の模型が展示されます。
会場はJ R盛岡駅前のいわて県民情報交流センター（〒020-0045 岩手県盛岡市盛岡駅西通1-7-1）入場無料です。

【報告】2/1 姫路市

「大災害時に

私たちにできること」開催

2/1（土）姫路市総社会館において、姫路市・立命館大学共同事業「官学共同シンポジウム 大災害時に私たちにできること」を開催しました。昨年の5月に姫路市と立命館大学が連携協力に関する協定を締結したことがきっかけとなり、姫路立命会の協力を得て開催されたものです。
当日のパネラーとして、立命館大学共通教育推進機構の桑名恵准教授と本学学生の岩井仁志さん、出雲恵理加さん（共に産業社会学部3回生）が参加し支援活動の経験について語り、大災害時にできること、ボランティアや防災に対する考え方などについて発表しました。



これからの主な取り組み
〇3/12(水)-18(火)後方支援スタッフ派遣・第23便
今回の派遣では、学生14名が津波により市街地の広範囲で被害を受けた岩手県陸前高田市において、瓦礫撤去など、ニーズに応じた活動に取り組みます。
〇3/15(土)立命館中高 復興支援プロジェクト報告会「Warm Heart」開催
立命館中学校・高等学校生徒による復興支援の活動報告、栃木県小山消防署特別救助隊隊長をゲストに迎えての講演会、参加者とのワークショップなどを実施。
〇3/15(土)-16(日)「応援団吹奏楽部の派遣」(岩手県大船渡市 さくらコンサート)
大船渡市で開催されるさくらコンサートに応援団吹奏楽部が参加します。

＜それぞれの取り組みの詳細については、今後HPや瓦版でお伝えします。＞

立命館では東日本大震災発生後、被災地域の大学からの支援要請など、緊急的・総合的に判断・対応が必要なものや、学生のボランティア活動、支援に関わる教員の教育・研究活動へのサポートなど、学内外の情報を整理し具体化していく必要性があると判断し、2011年4月21日に、「立命館災害復興支援室」を設置しています。

【報告】留学生8名が

2/6-7 福島スタディツアーを実施

立命館大学に通う中国・韓国・台湾・ドイツ・ウクライナ・インドネシア・トルクメニスタンからの留学生 計8名が、2/6・7にかけて福島県を訪れ、被害の状況や復興の姿、福島の魅力に触れるスタディツアーを実施しました。
ツアーは昨年末に開催した立命館と福島県との協力協定式・フォーラム「ふくしまとはじめよう。京都・立命館」において、福島県の内堀副知事と、立命館大学の留学生7名が「ふくしまの魅力を海外に発信していくためにはどうしたらいいか」というテーマで懇談を行った際、原発事故や復興の取り組みについて、留学生たちから「自分の目で福島を見てみたい」という意見が出たことから実現したものです。
2日間のツアーでは福島洋上風力交流センターや農産物検査の現場を見学、福島大学における学生交流、内堀雅雄副知事への表敬訪問など行い、福島の現状を確認し、福島の抱える問題や今後の可能性について理解を深めました。



【福島県と連携協力に関する協定を締結】
2013年12月20日学校法人立命館では福島県の復興や風評被害の解消に向けた情報発信等への協力を目的とした連携締結しました。



【報告】2/21 守山高等学校 SSH

アカデミックプレゼンテーション

ボランティア活動報告の実施

2/21（金）滋賀県の野洲文化ホールにおいて、立命館守山高等学校が主催する文理融合の学びの成果を発表する生徒研究発表会「SSH・アカデミックプレゼンテーション」が開催され、様々な生徒がこれまで取り組んできた研究を発表し、そのひとつとして、「東日本大震災復興ボランティア活動報告 Pray For Japan 活動報告」が行われました。



活動は昨年の12/20（金）～23（月）にかけて立命館守山高校3年生46名が宮城県南三陸町および石巻市を訪問し、水田の石取り活動や海岸清掃活動、新聞社への取材・復興支援商品の仕入れ作業などのボランティアを行ったものです。活動に参加した生徒からは、人と人との繋がりをつくりという大切な意味のある活動であったと感想も届いています。



編集後記

東日本大震災から丸3年が経とうとしています。これまで立命館の学生、生徒、教職員が復興支援に関るなかで、多くの関係者が気付きや出会いを通じ震災復興の課題を知り、今もさまざまな活動に取り組んでいます。災害復興支援室では、これらの取組みを今後も継続できる環境を整えることを通じ、立命館から復興を応援する力を生み出しつづけていと考えています。今後もご協力のほどお願い致します。
立命館大学災害復興支援室瓦版【第22号】
発行人・編集 立命館災害復興支援室
Tel. 075-813-8130（総合企画課内）
311fukko@st.ritsume.ac.jp
http://www.ritsume.ac.jp/rs/20110311/